

句歌で巡る 野田 20

木村 捨録

きむら すてろく



明治30(1897)年 11月2日、福井県福井市に生まれる
中央大学卒業
大正7(1918)年 短歌結社「霸王樹」に入会
大正8(1919)年 短歌商業誌「日本短歌」を創刊
昭和7(1932)年 改造社から「短歌研究」を譲り受け発行
昭和19(1944)年 月刊「霸王樹」を復刊
昭和24(1949)年 林間短歌会を結成
昭和25(1950)年 8月19日、94歳で永眠
平成4(1992)年

天の川見ゆるが如く宵晴れし
野田図書館の通りをゆけり

明治30(1897)年に福井県で生まれた木村捨録は、大正8(1919)年、短歌結社「霸王樹」に入会し、橋田東聲とうせいに学びます。

その後、昭和7(1932)年に「日本短歌」を、また、同19(1944)年には改造社から「短歌研究」を譲り受けて発行しました。木村は戦後、月刊「霸王樹」復刊に尽力し、霸王樹第3代主宰となり、さらに同25(1950)年には「林間」を創刊、主宰しました。

平成4(1992)年8月に94歳で亡くなるまで、多くの歌集や評論集を残しました。

表題の一首は、木村捨録が七夕の時期に野田を訪れ、野田図書館の通りを歩いた際に見上げた夜空を詠んだものです。詠んだ年代から、この野田図書館とは、現在の野田市立興風図書館の前身である、財団法人興風会図書館のことと考えられます。当時は、現在のキッコーマン本社駐車場近くにあったため、図書館通りは、この通りのことであつたと思われます。

(文中敬称略)

興風図書館の歴史

興風図書館の歴史は古く、大正10(1921)年6月に「戌申会簡易図書館」として開設。同12(1923)年5月には、野田町に移管され、「野田町図書館」と改称します。

さらに昭和4(1929)年11月には、財団法人興風会に移管され、同年に落成した興風会館内に移転。名称も「財団法人興風会図書館」になりました。

その後、醸造家らの寄付を受け、同16(1941)年10月には、現在のキッコーマン本社駐車場近くに独立した図書館が建設され、以来、県内有数の図書館として活躍しました。

同54(1979)年4月、興風会設立50年を記念し、建物や蔵書など一切を市に寄付いただき、再び「野田市立興風図書館」となりました。

平成10(1998)年の「櫛のホール」完成とともに、同ホールの1・2階部分に移転し、現在も多くの市民の皆さんにご利用いただいています。

【参考文献】歌集「壮年的」/
歌集下總(下總歌話会編)